

練習を始める前に

全10問 | 小さな練習から、まとまった作文へ

名前 _____

日付 _____

条件作文では、題意に答えながら、字数・段落・指定語・文体などを同時に満たします。条件を箇条書きにしてから構成を考え、書いた後は本文のどこで満たしたかを確認しましょう。形式が合っていても、根拠や意味のつながりがなければ十分とはいえません。

問1～4 基礎／問5～7 標準／問8～10 応用。自分で書いてから、解答解説の例と確認基準を読みましょう。作文の内容は一つに決まりません。

この教材の「字数」は、横書き原稿欄の使用マス数で数えます。本文だけの文字数とは異なります。題名・氏名は原稿欄の外に書きます。

1行20マス。段落の最初は1マス空けます。改行は次の行へ進み、前の行の余ったマスも数えます。最終段落の末尾より後の空きマスは数えません。

句読点・かぎ括弧は原則1マスです。ただし「。」と直後の閉じかぎ括弧は同じマスに書きます。句読点や閉じ括弧が行頭に来るときは、前の行の最後のマスに前の文字と一緒に入れます。

開き括弧が行末に来るときは、そのマスを空けて次の行から書きます。その空きマスも数えます。数字は原則として漢数字を使います。

以上はこの教材でそろえた練習用のルールです。学校・入試の原稿用紙や字数計算に別の指示がある場合は、その指示を優先します。

取り組み終わったら、できた問に印を付けましょう。

問1〔 〕 問2〔 〕 問3〔 〕 問4〔 〕 問5〔 〕

問6〔 〕 問7〔 〕 問8〔 〕 問9〔 〕 問10〔 〕

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

名前

日付

問1 複数の条件を整理する

出題文を読み、題意を一つ、内容と形式の条件を合わせて四項目に整理しなさい。まだ作文は書かない。

考える材料

出題文：新入生へ、提出物を忘れないための助言を書きなさい。自分の経験とそこから得た考えを含めること。使用マス数は百八十～二百マス、二段落とする。第二段落に「今後」をそのまま一回使い、常体で書くこと。

条件

- 1 題意には読み手と目的を含める。
- 2 四項目は、内容・長さや段落・指定語と位置・文体に分ける。

確認 語句そのものだけでなく、回数と位置も取り出したか。

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問2 指定語の形と働きを見分ける

条件は「『一方』をそのまま一回使い、共同編集の利点と課題を対比する」である。合うものを一つ選び、他の二つが合わない理由を書きなさい。

考える材料

ア：共同編集は変更を共有しやすい。一方、編集が重なると内容を整理し直す必要がある。

イ：共同編集は変更を共有しやすい。他方、編集が重なると内容を整理し直す必要がある。

ウ：一方、変更を共有しやすい。一方、編集が重なると整理が必要だ。

条件

1 文字の並び・回数・対比の内容を確認する。

2 ア・イ・ウすべてに触れる。

確認 指定がない作文なら使える表現と、この問題で使える表現を区別したか。

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問3 指定語で理由をつなぐ

材料を使い、主張と理由を二文で書きなさい。第二文を「なぜなら」で始め、「からだ。」で終わること。

考える材料

材料：班の調査では最初に担当と項目を確認する／同じ資料を別々に調べる重複を減らせる。

条件

- 1 第一文に主張、第二文に理由を書く。
 - 2 「なぜなら」をそのまま一回使う。
 - 3 第二文は「からだ。」で終わる。
-
-
-
-

確認 「なぜそう考えるのか」という問いに、第二文が答えているか。

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問4 段落ごとの内容を配分する

四つの材料を、指定された二段落に分けなさい。各段落に使う記号と、その配分の理由を簡潔に書きなさい。

考える材料

条件：第一段落は経験と結果、第二段落は考察と今後の行動。

架空の材料：ア 作業名だけの引き継ぎ資料に、準備物と手順を追記した。／イ 後任が、必要な物を自分で準備できた。／ウ 書き手と読み手では前提知識が違うと気付いた。／エ 次は後任に読んでもらってから完成させたい。

条件

- 1 四つの材料を全部使う。
- 2 段落数を文の数と混同しない。

確認 指定された内容を、正しい段落に置けているか。

標準の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

名前

日付

問5 語を入れただけの文を直す

下書きは指定語を使っているが、内容の条件を満たしていない。不足する点を示し、第二文以降を二文で書き直しなさい。

考える材料

条件：共同編集の利点を書き、「ただし」をそのまま一回使って課題を示し、対応策を加える。

下書き：共同編集なら変更を共有しやすい。ただし、便利なので活用したい。

使える材料：同時に同じ箇所を直すと混乱する可能性／修正する範囲を先に決める。

条件

- 1 課題と対応策を、両方加える。
- 2 書き直す部分に「ただし」を一回使う。
- 3 元の利点は変えず、意味のつながりを作る。

確認 指定語を取り除いて考えても、必要な内容が入っているか。

標準の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問6 立場と文体を統一する

下書きを、書き手である「私」の立場から、常体の二文に直しなさい。行動と理由は変えないこと。

考える材料

下書き：その生徒は、班の進行役を担当しました。途中で発言が一部の人に偏ったので、全員に順番に案を求めた。

条件

- 1 第一文に「私は」をそのまま一回入れる。
 - 2 文末を「た」などの常体に統一する。
 - 3 進行役の行動と、その理由を残す。
-
-
-
-

確認 文体の修正で、誰が行動したのか変わっていないか。

標準の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問7 条件の位置まで点検する

下書きを三つの観点で点検し、適合・不適合と根拠を書きなさい。不適合の項目には、文をどう動かすかまで示すこと。

考える材料

条件：二段落。第一段落に提案と具体例を置き、「例えば」を一回使う。第二段落に懸念と対応を置く。

第一段落：学級の連絡を共同メモにまとめたい。

第二段落：例えば、提出期限を教科別に一覧にする。一方、端末を使えない場面もあるため、紙でも確認できるようにしたい。

条件

1 段落数、指定語と具体例の位置、懸念と対応の三項目を確認する。

2 本文中の表現を根拠に判断する。

3 この問のチェック欄は、適合なら○、不適合なら×を付ける。根拠と文の移動は、罫線の解答欄に書く。

書き手と読み手のチェック

○ できた／△ 一部できた／× 要修正。読み手がいないときは、時間を置いて自分で確認します。

自分 ☐ 読み手 ☐ **二段落になっている**

文の数ではなく、段落の切れ目を確認する。

自分 ☐ 読み手 ☐ **第一段落に提案・具体例・「例えば」がある**

語の回数と位置、具体例の内容を確認する。

自分 ☐ 読み手 ☐ **第二段落に懸念と対応がある**

対応策が、挙げた懸念を解決する方向か確認する。

問7 条件の位置まで点検する 解答欄

前のページの条件に従って答える

確認 語の有無だけでなく、段落内の役割と位置も確かめたか。

問8 手順と未確認の点を報告する

応用 | 使用マス数 120～160マス

名前 _____ 日付 _____

会議を欠席した委員へ、校内案内の見直しについて報告する作文を書きなさい。以下の架空の材料だけを使い、決定済みのことと未確認のことを分けること。

考える材料

委員会で見直し案を作成した／既存の案内図と校内の動線を照合した／分岐点の表示が不足していると分かった／曲がり角に表示を加える案をまとめた／実際に迷う人が減るかは未確認／来週、案を試す予定。試行時には利用者の様子を確認する予定。

条件

- 1 使用マス数：百二十～百六十マス。一段落。
- 2 「まず」「次に」を、そのまま一回ずつ使う。
- 3 確認と提案の手順、未確認の点、今後の予定を含める。
- 4 文末は常体で統一する。

構成メモ

報告：どこまで進んだか

手順：確認してから提案する

区別：未確認の効果と今後の予定

問8 手順と未確認の点を報告する 本文

使用マス数 120～160マス | 横書き 1マス9mm

本文を書く欄

																				20
																				40
																				60
																				80
																				100
																				120
																				140
																				160

数え方 段落頭・途中の改行で残る空きも数え、最後の文の後の空きは数えません。

確認 読んだ委員が、決まったことと今後確かめることを区別できるか。

読み返して直したいところ

直した理由

問9 二段落の指定を同時に満たす

応用 | 使用マス数 160～200マス

名前 _____ 日付 _____

学級委員会へ、連絡事項を共同メモにまとめる案について、条件付きの提案を書きなさい。以下の架空の状況を使ってよい。

考える材料

架空の状況：提出期限などの連絡が複数の場所に分かれている。共同メモなら教科別に一覧にでき、変更も共有できる。一方で、端末をすぐ使えない場面もある。紙への掲示も併用できる。

条件

- 1 使用マス数：百六十～二百マス。二段落。
- 2 第一段落に提案と具体例を書き、「例えば」をそのまま一回使う。
- 3 第二段落に懸念と対応を書き、「一方」をそのまま一回使う。
- 4 常体に統一する。実施効果は未確認なので、確実な結果として断定しない。

構成メモ

第一段落：提案と具体例

第二段落：懸念と対応

確認：指定語の位置と回数

問9 二段落の指定を同時に満たす 本文

使用マス数 160～200マス | 横書き 1マス9mm

本文を書く欄

																				20
																				40
																				60
																				80
																				100
																				120
																				140
																				160
																				180
																				200

数え方 段落頭・途中の改行で残る空きも数え、最後の文の後の空きは数えません。

確認 「例えば」と「一方」の位置、回数、意味の働きがすべて合っているか。

読み返して直したいところ

直した理由

問10 複合条件で改善案を書く

応用 | 使用マス数 180～200マス

名前 _____

日付 _____

次の話し合いを改善するため、学級に向けた提案を書きなさい。自分の経験でも、下の架空の経験でもよい。形式だけでなく、理由と懸念への対応が伝わるようにすること。

考える材料

架空の経験：班の話し合いで、発言が重なって一部の案を記録できなかった。後で各自が案を短く書き、全員の案を並べて比べた。一方、書く時間を長くしすぎると、意見を深める時間が減るおそれもある。

条件

- 1 使用マス数：百八十～二百マス。二段落。
- 2 第一段落に提案と理由を書き、「なぜなら」をそのまま一回使う。
- 3 第一段落に、自分の経験または材料の経験を、理由の根拠として入れる。
- 4 第二段落に「ただし」をそのまま一回使い、懸念と対応策を書く。
- 5 常体に統一し、最後の文は「たい。」で終える。

構成メモ

第一段落：提案・理由・経験

第二段落：懸念と対応・最後に取りたい具体的な行動

問10 複合条件で改善案を書く 本文

使用マス数 180～200マス | 横書き 1マス9mm

本文を書く欄

																				20
																				40
																				60
																				80
																				100
																				120
																				140
																				160
																				180
																				200

数え方 段落頭・途中の改行で残る空きも数え、最後の文の後の空きは数えません。

確認 一か所直した後に、長さ・位置・回数・文体・末尾をすべて確認したか。

読み返して直したいところ

直した理由